

## 水稲新品種「ニシミノリ」について

岡田正憲・小野敏忠・西山 寿・木村弘美  
志村英二・甲斐俊二郎・和佐野喜久生  
(九州農業試験場)

OKADA, M., ONO, T., NISHIYAMA, H., MOTOMURA, H.,  
SHIMURA, E., KAI, S. and WASANO, K.  
A New Rice Cultivar "NISHIMINORI".

かねて配付試作中の水稲西海 125号は昭和51年から佐賀県で奨励品種に採用され、通称名を「ニシミノリ」として普及に移されたので、育成経過ならびに特性などの概要をのべて参考に供したい。本品種の育成に直接従事した職員は、筆者等および藤井啓史・今川隆典であり、また関係各府県農業試験場の係官のご協力によるところが大きく、ここに深甚の謝意を表したい。

## 来歴ならびに育成経過

ニシミノリは昭和36年、農林省九州農業試験場(筑後市)で、西海60号(のちのハヤトモ)を母、ホウヨクを父として人工交配を行ない、さらにその年にガラス室で晩期栽培により F<sub>1</sub> を養成して世代促進を行ない、その後も同場で集団育種法により育成された。

昭和44年より「西海125号」の系統名で、関係府県に配付し、地方的適否を確かめてきたものであるが、その結果、昭和51年5月(F<sub>10</sub>)「水稲農林241号」として登録、通称名を「ニシミノリ」と命名された。

## 特性の概要

1. 形態的特性 稈長はレイホウより約3cm短い短稈穂数型のうち品種である。稈の太さは中位で、稀に白の短芒をつけ、ふ先は白く、ふ色は黄白である。粒着は中の密で、脱粒性はやや易である。玄米は中形中粒で銚色を呈し、品質食味ともかなり良好である。止葉は直立し、熟色は鮮美である。

2. 生態的特性 出穂・成熟期ともにレイホウより2～3日早く、九州北半では中生の晩に属する。倒伏には強くてレイホウにまさる。いもち病にはあまり強くない。白葉枯病にはやや強く、イネわい化病抵抗性には中位、生産力はレイホウ並であり、機械植にも適している。

## 適地および奨励品種採用県

九州の平畑肥沃地ならびに一般平畑地で主としてレイホウ・ツクシバレの一部に代わるものとして普及するであろう。昭和51年度から佐賀県で奨励品種に採用され、普及に移されることになった。

## 栽培上の注意

## 一般特性

形質		品種名		
		ニシミノリ	(標)レイホウ	(比)ツクシバレ
早晩生型	早晩生型	中の晩短稈穂数	晩の早中稈穂数	晩の早短稈穂数
稈長 (cm)	71	74	71	
穂長 (cm)	20.6	19.1	19.5	
穂数 (本/m <sup>2</sup> )	342	342	344	
芒の多少・長短	極稀・短	稀・短	稀・短	
ふ先色	白	白	白	
ふ色	黄白	黄白	黄白	
脱粒性	やや易	やや易	やや易	
耐倒伏性	極強	強	極強	
抵抗性	葉いもち病	やや弱	弱	弱
	穂いもち病	やや弱	弱	弱
	白葉枯病	やや強	やや強	やや強
	わい化病	中	弱	強
玄米重(標)(kg/a)	56.2	57.8	59.2	
玄米重(機)(kg/a)	54.6	53.9	54.2	
玄米千粒重 (g)	22.7	23.3	23.7	
玄米品質	良	やや良	良	
食味	良	良	良	
調査場所・年次	九州農試標肥栽培, 標44~49年, 機46~50年平均			

草状がレイホウによく似ているので、栽植密度・施肥量・施肥法などはレイホウと同様でよい。いもち病にはあまり強くないので窒素の多用や偏用をさけ、イネわい化病抵抗性は中位であるが、一般ウイルス病の防除とあわせて、苗代期からのツマグロヨコバイなどの集団的な防除や管理が望ましい。やや早生であるから、品質を保持するように適期刈取りと、やや小粒であるので、玄米の調整は品種に適應するような留意が必要である。

## 命名の由来

西日本、特に北部九州の平畑部で豊作をもたらす意味である。